

1.....7.....28  
幼児の教育

アーカイブズとの対話②

56.....109・110

画像にみる「幼児の生活」(2)

— 園庭で育まれる物語へのまなざし

(昭和七年)

—

浜口順子

(大学教員)

今回の二枚の写真は一九三二(昭和七)年十一月号の口絵に掲載されたものだ。倉橋惣三が編輯主幹だった時期である。

いがぐり頭の男の子。セーラー服の襟に白いエプロンの帯がかかる背中越し、レンガを、一心に縦向き横向きに積み上げている。

『いま

おはなしを 聴いてきたばかり、

— 三匹の小豚の—。

マサミさんは一番小さい豚になって  
せっせとれんがのおうちを造っています』



浜口順子(はまぐちじゆんこ)  
お茶の水女子大学教授。本誌編集主幹。

こちらの写真では、四人の男児たちの中心に何かがいる。……まさか仔犬？

『写真とるんだよ』

ヂツとしておいでよね、

あ、

そっぽむいちゃ だめ。

幼稚園の庭の一すみで

生れた仔犬は、こうした

小さき愛撫のもとに、

まるまると肥って来ました』

八十年前の幼稚園では、庭で犬を飼うことが珍しくなかったのだろうか？ 一番右側の子どもが、左手を仔犬のあご辺りに添えて、ポーズをとらせようとしている。今もこの方、おじいさんになつてお元気かもしれない。「仔犬より、その貴方のお姿を今見せてもらっていますよ」と声を掛けたくなる。

園庭で過ごすそれぞれの子どもたちの物語が見える。(一部、現代漢字仮名遣いにしてあります)

